

特別講演会

「縄文の不思議を探る」を開催

エリーニ・ユネスコ協会主催

エリーニ・ユネスコ協会では、会員の樋浦忠司氏が講師となり、「縄文の不思議を探る」をテーマに特別講演会をエール学園をお借りして開催した。この会は、一般的な講演会ではなく講師も含め、みんなで縄文時代の生活や文化などを語り合い、学び合おうというものである。初めての試みにも関わらず、五〇名以上の参加者があり盛況のうちには始めることが出来た。

講師の樋浦氏は、縄文時代の基礎知識を丁寧にわかりやすくお話ししてくださるとともに、講話の途中で話の内容について会場の皆様と意見交換するなど、参加者は本当に楽しく学ぶことが出来たと思う。



また、樋浦氏は、栃木県教育委員会と交渉し、益子町御霊前遺跡出土の火焰土器（本物）を、わざわざ栃木県まで出てきてくださり、また、その博物館で再現された縄文時代のお菓子を

エール予備校



買ってきてくださるなど、実際に目で見、口で味わうなど縄文文化を肌で感じることが出来る仕掛けをしてくださった。その結果より身近に縄文時代を感じることが出来印象的な講演会となった。ちなみにお菓子は休憩時間においていただくことが出来た。また、火焰土器は大変貴重な物であるが、直接手で触れてもよいとの博物館の許可があり、講演後、恐る恐る土器に触れる人、その様子を写真に収める人など、めったにない貴重な体験に、参加者は少々興奮状態に陥っていた。

参加者アンケートによると「わかりやすい説明がよかった。縄文時代の考え方が変わりました」「さらに縄文時代の勉強をしたいとの思いを持った」「本物に触れて感激した」「聞いて、見て、触って、食べてわかりやすかった」「次回も参加したい。期待している」等々、非常に好評であり、縄文時代をテーマとした学習会活動に大いに期待を抱かせるものであった。

昨年は東京国立博物館、パリの日本文化会館で縄文展が開催され、他に例を見ない世界に誇れる縄文文化は、近年、国内だけでなく世界の

人々から注目を浴びている。東京国立博物館で開催された展覧会は、NHKでも特別番組で放映され、一万余りの長期間にわたって続いた縄文時代に生きた、人々の豊かな感性と造形美、そして精神文化は、日本の美意識の原点を見ることができ、大きな感動を与えてくれた。

ユネスコ世界遺産とは、現在を生きる世界中の人びとが過去から引継ぎ、未来へと伝えていかなければならない人類共通の遺産とされている。

エリーニ・ユネスコ協会では、一人でも多くの人々に縄文文化に興味・関心を持っていただくことによって、その素晴らしさを未来へ繋げていくためと考えている。そして、縄文時代を学ぶ合つ会を、今後も定期的に開催できればと考えている。(今堀順壽)





テーマ

- ①今につながる縄文の暮らしと技術
- ②日本人はどこからやってきたのか？

2019
7/13

縄文時代を学ぶ会

現代に息づく「縄文の暮らし」開催



ユネスコ諮問機関の世界遺産に決定した百舌鳥古墳群ですが、縄文遺跡も世界遺産になるのではないかと期待され注目が集まっています。

なぜ、縄文時代がこれほどまでに注目されたのか。それは、現代人が忘れかけている日本の素晴らしさを縄文人が思い出させてくれるからかもしれません。縄文人の暮らしや風習が現代の私たちの生活まで受け継がれているものが多数あります。「縄文時代を学ぶ会」で現代に息づく縄文時代を会場の皆さんと共に探求いたしました。(滝北由子)

エール予備校



講師：樋浦忠司氏
国際縄文学協会
エリーニ・ユネスコ協会会員

2020.7/11@エール学園3号館

テーマ

1. 現代につながる縄文の暮らし
2. 東日本の縄文と西日本の縄文

参加：42名

講師：樋浦忠司



縄文時代を学ぶ会

「縄文時代から学ぶ」生きる知恵」開催

第3弾！

コロナ禍の影響により延期されていましたが、開催を期待するお声やご協力を各方面より賜り、ようやく開催することができました。このような状況下ではありましたが、参加者の縄文時代に対する熱い想いに触れることができ、とても感激しました。当日は、入口での検温実施や手の消毒、会場内のマスク着用など感染予防の対策を講じ、参加者を絞り込んだ上、人と人の距離を確保した座席となりました。

当講演のコンセプトは継続して「縄文時代のトピラを開く」です。縄文時代に関する内容を幅広くご紹介することで、まったく縄文時代のことを知らなかった方や聞きかじり程度の方が、自分の興味ある分野を見つけ、余暇を使った遺跡や博物館めぐり、または書籍を通じて、自分なりの縄文との付き合い方を考えてもらおうキッカケにすることを目的としています。特定の分野にはあえて深入りせず、知っていたらちょっと友達に伝えたくくなる、そんな内容を継続して発信しています。回を重ね、開催3回目となりましたが、それでも話題に尽きることがないのが、縄文時代の奥深さを表しているといえます。講演は参加者の能動的な参画を引き出すため随所にクイズを挟んだ形で進めました。ひと手間加えてみたので皆さんには楽しんでいただけたようです。以下はその抜粋です。

Q 江戸時代15代265年続きましたが縄文時代が江戸時代なら徳川何代まで続くでしょうか（便宜上1代を20年と計算します）

Q 現代人は犬好き46.9%、猫好き33.6%という調査もありますが、縄文人は犬好きか？ 猫好きか？

Q 縄文土器を見て「なんだこれは！」と叫んだことで有名な人は？（ヒント：松田優作ではありません）



おばあちゃんっ子だった私は、幼少のころ祖母の実家にあった囲炉裏でお餅や串刺しの魚が焼かれる様子を食い入るように見ていたことを覚えています。（おなかがすいていたからだけかもしれませんが）新しく家が建ったときに屋根の上から投げられたお菓子を近所の友だちと一緒に競って集めたり、自分で作った野菜のお裾分けをしにきた近所の人とおしゃべりしてかわいがってもらったりもしました。身近にはクリ林がありつくりや山菜の天ぶらが大好きな変わった子どもでした。そういった意味では、あのころまで縄文時代が続いていたといっても過言ではないかもしれません。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」がユネスコ世界遺産登録され、まだまだ縄文のブームは続いていくことでしょう。全体としては、弥生時代や古墳時代の講演が多い関西圏ですが、これからは縄文時代の素晴らしさをより多くの方と分かち合えることを願っています。

(樋浦忠司)

エリーニ・ユネスコ協会 YouTubeチャンネルより

縄文時代を学ぶ会

第1回 縄文の「不思議」を探る

第2回現代に息づく「縄文の暮らし」

がごらんになれます。

